

2023年7月10日発行

神奈川イグレンの活動状況を伝える機関紙

神奈川イグレンニュース〈第236号〉

発行：神奈川県異業種連携協議会（議長 金究武正）

発行責任者：専務理事 芝 忠 編集：事務局長 愛賢司

〒231-0015 横浜市中区尾上町580 神奈川中小企業センタービル7F

TEL/FAX 045-228-7331 <http://www.kanagawa-igren.com>

（目 次）

- 川崎異業種研究会 2月移動定例会
「つくば研究学園都市視察」報告 (1頁)
- 川崎異業種研究会 3月定例会報告 (2頁)
- 川崎異業種研究会 4月定例会を開催 (3頁)
- 川崎異業種研究会 2023年度通常総会等を開催 (4頁)
- 「ものづくり太郎」チャンネルが教えてくれること (6頁)
アジアビジネス探索者 増田辰弘
- 【閑中閑話】「先進国」とはどんな国？ (7頁)

川崎異業種研究会 2月移動定例会「つくば研究学園都市視察」報告

2月は移動定例会として、2月9日（木）に「つくば研究学園都市視察」を行った。当日は秋葉原駅集合後、つくばエクスプレスに乗り研究学園駅で下車。大型複合ショッピングセンターのイーアスつくば内にある「サイバーダイnstudio」を視察。サイバーダイnstudio社が開発した世界初の装着型サイボーグのHALを前に、開発経緯や介護・リハビリ等での使用例について説明を受けた後、肘・単関節タイプの装着・動作体験を行った。HALはレンタルでき、事故で歩けなくなった方が数ヵ月間装着してリハビリした結果、自力で歩行可能まで回復した映像に一同感銘を受けた。



【HALの装着・動作体験】

続いて「食と農の科学館」に移動し、農研機構の方から、映像による事業説明を受けた後、シャインマスカットや紅はるか等の有名ブランド農産物をはじめ、稲作・大豆・果物の研究開発状況、光るカイコや青い菊の商品開発など、同機構による最先端の研究開発と商品化に関する展示について説明を受けながら見学した。身近な農作物や食に関するテーマでもあり、参加者は活発に質問を行い、非常に有意義な見学ができた。最後に「地質標本館」へ移動し、研究員より説明を受けつつ見学。特別展「東京都心の地下をさぐる」期間中であり、最新の研究による首都圏の数万～10 数万年前の3D地形再現図や活断層・地下プレート移動による地震に関する説明を受けた他、豊富な地層断面・岩石等の標本や工夫を凝らしたジオラマやパネル等の展示物について分かりやすい説明を受け、一同時間を忘れて熱心に拝聴した。



【食と農の科学館前にて集合写真】



【ジュラ紀地層レプリカ前にて集合写真】

川崎異業種研究会 3月定例会報告

3月9日（木）当所にて3月定例会を開催した。今回は『2022年度小林ゼミ、産学連携活動の実践報告～小学生の稲作づくり支援を始めとするグリーンツーリズム等の実践報告』と題して、和光大学の小林猛久教授（当会副会長）が指導されているゼミナール学生方による発表が行われた。

当日はゼミ生22名が参加し、SDGS及びグリーンツーリズムによる地域活性化をテーマに、NPO法人岡上アグリリゾートとの連携による産学連携活動の取り組みについて、2年生6名が分担して発表した。

和光大学が地元の岡上小学校の生徒・家族を対象とした稲作やサツマイモ等の収穫体験イベントでは、生産者には参加費収入と収穫作業の省力化、参加者には収穫体験と地元農作物が得られるなど、双方にメリットをもたらす都市型農業についての成果を上げられた。

収穫した苺・柿を材料にドライフルーツ・ジャムを市内企業と連携して生産し、学内や市内イベント等で販売するなど、アグリビジネスの取り組みについても報告がなされた。

小林副会長による講評後、参加者からはゼミ生に対し、将来社会人となる上での貴重な経験に対する高評価と強い関心が寄せられ、数年振りに会員と学生の対面による活発な交流を行うことができた。

定例会終了後は、懇親会を行い、来年度事業など自由闊達な意見交換を行いながら会員同士交流を深めた。



【和光大学小林ゼミ生による発表】



【参加者と学生との活発な意見交換】

川崎異業種研究会 4月定例会を開催

川崎異業種研究会では、4月6日（木）、川崎商工会議所会議室にて4月定例会を開催した。今回は「最近の地域経済状況について」と題して、川崎信用金庫お客さまサポート部審査役今井聡氏並びに調査役塩嶋亮平氏による講演が行われた。

はじめに、今井審査役より、同金庫による「中小企業景気動向調査」をもとに川崎市内の景況感について説明がなされた。地域経済は新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和後、一時的に回復傾向が見られたものの、原油価格高騰や物価高の影響により依然厳しい状況が続いている。最近の1-3月期では、建設業が最も良く、小売業が最も悪く、最も改善したのはサービス業で、後退したのは製造業。その他の業種は横ばい。先行きについては、依然厳しい状況が続くことが予想され、目下の経営課題としては「燃料・原材料の高騰」「売上の停滞や減少」「人手不足」が挙げられた。

引き続き、塩嶋調査役より、SDGsやカーボンゼロチャレンジ等の環境を配慮した支援策をはじめ、全国の金融機関と連携し中小企業の成長を支援するプラットフォーム事業や企業のM&A・事業承継等のサポート体制等の説明があり、市内企業の商品開発・販路拡大の支援事例として、味の素AGF(株)川崎工場による「香辛子」を市内老舗飴屋、地元プロスポーツクラブとのコラボによって開発した新商品が事例紹介された。参加者は地元経済の最新の状況と同金庫による経営支援体制について熱心に聴き入り、講演後も質疑応答が行われるなど、大変有意義な定例会となった。定例会後は懇親会を実施。コロナ渦前と同じ立食懇談となり、参加者同士、終始和やかな雰囲気の中で、交流を深めることができた。



(最新の地域経済状況を学ぶ)
会により交流を深める)



(懇親

川崎異業種研究会 2023年度通常総会等を開催

川崎異業種研究会では、5月18日（木）、川崎商工会議所会議室にて、2023年度通常総会・講演会並びに懇親会を開催した。

通常総会では、司会の小林副会長による開会宣言後、菅原会長より挨拶がなされた。2023年度事業方針として「川崎異業種研究会の会員増強と価値増強」が示され、事業内容として「会員交流事業の促進」「会員増強活動の促進」「企業間連携・産学官連携事業への促進」の3つの骨子について述べられた。

続けて、菅原会長が議長に就き議事に入り、第1号議案「2022年度事業・収支決算報告」、第2号議案「2023年度事業計画・収支予算案」、第3号議案「役員改選」について諮られ、全会一致を以て承認された。

特に今年度は、日本・ベトナム外交樹立50周年を記念して、9月にベトナム視察会を実施するなど、活発な事業展開を図るとともに、会員増強に鋭意取り組んでいくこととなった。議事終了後、来賓の草壁会頭よりご挨拶を頂き、総会を終えた。



【菅原会長より挨拶】

【草壁会頭より来賓挨拶】



【総会にて菅原会長より事業方針説明】

総会に続いて『ベトナムから見た越日交流50年及びこれからの50年の交流に向けて～文化・経済・人的交流について～』と題して、和光大学経済経営学部非常勤講師フン ディン チョン氏による講演会が行われた。

フン氏は日本での留学・就職を経て、日本の大学で教鞭をとる大の知日家。講演では、ベトナム人が日本と日本人について持つ良い印象や両国交流史、大人気の日本アニメ、日本企業の進出、橋梁・空港等「社会インフラへの支援活動」等について説明があり「外交樹立から50年間で強化された両国の有効なパートナーシップを礎に相互に学び合いながら、地域発展と安定という両国共通の目標に向けて協力を促進していくことが大切」旨述べられた。参加者は熱心に聴き入り、ベトナムの視点から見た両国交流について知る貴重な機会を得るなど、大変有意義な講演会となった。

講演会終了後、懇親会を開催し、参加者同士、交流を深めるとともに活発な意見交換が行われた。



【フン講師との活発な質疑応答】



【親睦を深めた懇親会】

なお、当研究会では、数年振りの国外視察会として、日本ベトナム外交関係樹立50周年記念特別企画として、9月にベトナム視察会を実施することとなった。訪問地は川崎港と友好港であるダナンをはじめ、日本との関係が深い、ホイアン、フエ。現地企や技術者養成機関などを視察する予定である。

「ものづくり太郎」チャンネルが教えてくれること

アジアビジネス探索者 増田辰弘

(週刊 BCN 2023 年 03 月 20 日 vol. 1961 掲載)

チャンネル登録者が約 18 万人で、製造業系の YouTuber ではトップクラスの「ものづくり太郎」の話聞く機会があった。格好はサングラスをかけてヤンキー風だが、日本企業のものづくりについて大変興味深い話をする。一つ一つ、うなずくことが多かった。会場には熱心に聞き入る町工場の経営者とおぼしき姿もあった。

まず彼が取り上げたのは、多くの企業が YouTube で自社の製造サービスを垂れ流し続けることだった。ワンパターンで、ただひたすら同じものを流し続ける。かなり資金をかけて作成しているが、これでは何にもならない。

理由はどこにあるのか。一番は YouTube を担当する部門が、多くの企業で窓際ということだ。日本企業はまだそんな認識でしかない。彼は内容を毎日少しずつ変えてほしいと指摘する。登録者はその変化を追いかけているからだ。

そのためには社長がまず毎日、自社の YouTube を見る必要がある。うまく YouTube が機能すると、営業部員 10 人分の仕事はする。しかも不満も言わず 1 日 24 時間、1 年 365 日仕事をしてくれる。

重要なことは YouTube の内容が面白いこと、そして見る側に得があることだとも話す。ある大手メーカーの YouTube の問題点、生産システムの課題点を極めて鋭く指摘し、YouTube を指導することで業績が大きく改善した事例も紹介した。

彼の話は、時には大きな経営戦略にも結びつく。低賃金のアジアで製品をつくり、豊かな欧米で売る。多くの日本企業は、この思考法からまだ脱却できていない。少子高齢化でマーケットが細る欧米よりも、新富裕層が増えるアジア、中東を加えないとうまくいかない。アジアは主要な生産基地で、かつ販売基地なのだ。

彼は毎日多くの情報を発信するから、多くの情報も入ってくる。一つ一つはミクロの街角情報、町工場情報であるが、これをつなげると大手の経済新聞では読み取れない、すごいものづくり情報の塊ができてくる。

いまさらながら、米 Google (グーグル) はすごい産業インフラを提供してくれたものだと思う。これをどのようにして使うのか、使わないのか。中小企業が最大のチャンスの時という「ものづくり太郎」の言葉をどう受け止めるのか。それが問われる時代となってきた。

【閑中閑話「先進国」とはどんな国？

ちょっと前の話で恐縮です。去る5月19日から21日G7広島サミットが開かれました。G7は「先進国首脳会議」または「主要国首脳会議」と称されています。実は、前から気になっていることがあります。「先進国」という表現です。辞書によれば、「政治・経済・文化などが発達し、他国の援助などに依存しないで自立して行くことのできる国」とのこと。この表現もちょっと気になりますね。経済は発展の度合いをある程度数値化できますが、政治や文化となるとどうでしょう。国際NGO「国境なき記者団」が毎年発表している指数「世界報道自由度ランキング」2023年によれば、先進7か国の順位はカナダ15位、ドイツ21位、フランス24位、イギリス26位、イタリア41位、アメリカ45位、日本68位。因みにベスト3か国は、ノルウェー、デンマーク、スウェーデンの北欧諸国、ワースト3か国は、ベトナム178位、中国179位、北朝鮮180位。

今一つのデータ、世界経済フォーラムが発表した各国における男女格差を測る「ジェンダー・ギャップ指数2022」を観てみますと、「経済」「教育」「健康」「政治」の分野での総合評価のG7の順位は、10位ドイツ、15位フランス、22位イギリス、25位カナダ、27位アメリカ、63位イタリア、116位日本。

やはり政治・文化面での先進国評価は難しい気がします。経済、政治、文化等の発達度を分野別に評価する方が合理的かもしれませんね。

では、マクロ経済指標で日本の経済力の現状の一端を見てみましょう。(表1)(表2)で紹介するのは、多摩大学学長で一般社団法人日本総合研究所会長の寺島実郎氏が、2月19日に動画「寺島実郎の世界を知る、力-2023年の展望」で示した資料から作成したものです。マクロ経済指標のほんの一部ですが、世界経済の中に占める日本経済の現状は、1950年の水準にまで後退したと言えます。いろいろな面で残念ですが「先進国」と位置づけるには厳しい感じがします。

というよりも、世界経済がいろいろな国々との関わりで成り立っていることやグローバルサウスの台頭、国際政治の複雑な動きを見ていると、「先進国」「主要国」といった20世紀的発想自体が、国際的な政治経済の現状にマッチングしていないのではないのでしょうか。

世界で最も戦争の悲劇と悲惨を体験している都市の一つである広島で開催された重要な会議であるなら、核戦争の危険もはらんでいるウクライナ紛争の片方の当事者だけでなく、両方の当事者を招いて紛争終結を訴えるぐらいのパフォーマンスができてこそ「主要国」のリーダーと言えるのではないのでしょうか。

(表1) 世界実質 GDP 成長率 (IMF2023年1月)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023予測
米国	2.3	2.9	2.3	▲3.4	5.9	2.0	1.4
ユーロ圏	2.6	1.8	1.6	▲6.1	5.3	3.5	0.7
日本	1.7	0.6	▲0.4	▲4.6	2.1	1.4	1.8
インド	6.8	6.5	3.7	▲6.6	8.7	6.8	6.1
中国	6.9	6.8	6.0	2.2	8.4	3.0	5.2
ASEAN 5	5.5	5.4	4.9	▲3.4	3.8	5.2	4.3
台湾	3.3	2.8	3.1	3.4	6.5	2.4	2.8

*1 1990年代以降の失われた30年の回復の兆し見えず。ほぼゼロ成長の日本。

*2 ASEAN5 インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム

(表2) 世界 GDP における日本の占める位置

	1950年	1994年	2000年	2022年
日本	3%	18%	15%	4%
米国	27%	26%	30%	25%
アジア (除日本)	15%	5%	7%	25%

*2 1994年をピークに世界経済の中で停滞著しい経済力

*3 その結果、2022年一人当たり GDP (国の豊かさのシンボルマーク) は、世界30位
アジアで5位 (1位シンガポール、2位香港、3位ブルネイ、4位台湾)